

《平成23年度「原子力防災訓練」を実施しました》

3月13日、女川原子力発電所では、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえて策定した緊急安全対策の有効性を確認することを目的に、原子力防災訓練を実施しました。

宮城県沖でマグニチュード9.0の地震が発生し、外部からの電源の供給が停止するとともに、大津波による海水冷却系の浸水の影響で非常用ディーゼル発電機が使用できなくなり、全ての交流電源が喪失したとの想定のもと、発電所員と協力会社社員あわせて約150名が訓練に参加しました。

今回の原子力防災訓練では、原子炉や使用済燃料プールに注水するための水源を確保する訓練やがれき撤去訓練、シミュレーターを使った運転操作訓練をはじめ2月に運用を開始した大容量電源装置の起動訓練や放射線のモニタリング訓練など10項目の訓練を実施しました。

女川原子力発電所では、今後も、緊急安全対策を着実に進めるとともに、様々な訓練を継続して実施することにより、発電所の安全性をより一層高めてまいります。

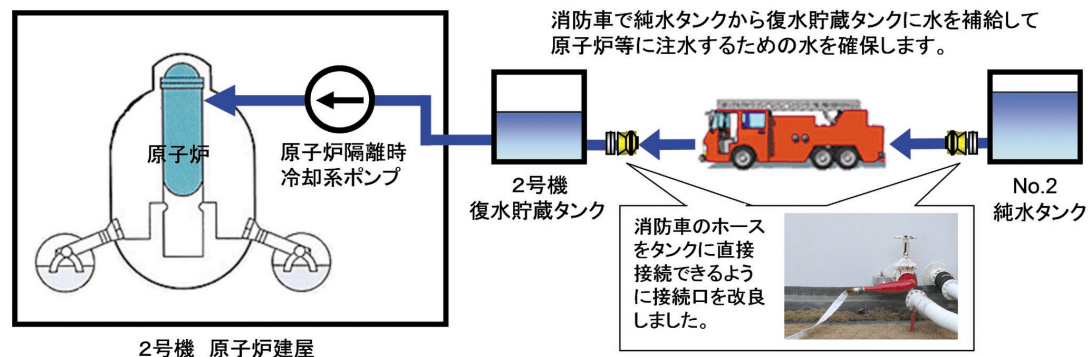
水源確保訓練

原子炉や使用済燃料プールを安定した状態に保つためには、原子炉等の水位を維持することが重要となります。

消防車を使って純水タンクやろ過水タンクなどから復水貯蔵タンクに給水することにより、原子炉等の水位を維持するために必要な水源を確保します。



今回の訓練における水源確保



電動機洗浄・乾燥訓練

津波により原子炉等を冷却するために必要な海水ポンプの電動機が海水を被ってしまうと、電動機が絶縁不良となり、使用することができなくなってしまいます。

このため、電動機を真水で洗浄し、乾燥することで機能を回復させ、ポンプを使用できるようにします。



がれき撤去訓練

津波が発電所の敷地内に到達してしまうと、流木など様々ながれきが道路を塞いで、電源車や消防車などの緊急車両が通行できなくなってしまうことが予想されます。

このため、重機（ホイールローダ）を配備し、道路上に散乱したがれきを撤去し、緊急車両が通行できるようにします。



シミュレーター訓練

女川原子力発電所では中央制御室を模擬したシミュレーター室を設置しており、様々な状況を想定した運転操作訓練を定期的に行っています。

海水冷却系の機能や全ての交流電源が失われた中でも、原子炉を安全に冷温停止させる操作を的確に実施できるようにしています。



《女川原子力発電所の状況について》

東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所の全号機は設計どおりに自動停止し、安定した状態で安全に停止しています。

現在実施している定期検査の2月分として、トラブルおよびトラブルに該当しない軽度な事象はありませんでした。また、地震・津波による主要設備への軽微な被害として、これまでに確認された61件のうち43件が復旧しています。

なお、これまでも教育や注意喚起の掲示等により管理区域内での喫煙行為の防止に努めておりましたが、3号機の管理区域内において、たばこの吸殻が発見されたことから、再発防止に向け、喫煙禁止の周知徹底や教育の充実等を図ってまいります。

【発電所の運転状況（3月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	定期検査中	第20回定期検査を実施しています
2号機	定期検査中	第11回定期検査を実施しています
3号機	定期検査中	第7回定期検査を実施しています

《「女川町商店街復幸祭」が開催されました》

3月18日、東日本大震災から1年が経過した中で、女川町の復興の一助となり、また、新たな復興へのスタートとなることを願って、「女川町商店街復幸祭」（主催：女川町商工会）が女川町総合運動公園で開催されました。

当日は、2000匹の焼きサンマの無料提供や三陸産の海産物のすくいどり、ご当地ヒーロー「リアスの戦士イーガー」のステージショーなど様々なイベントが開催されたほか、地元のお店が多数出店し、多くの来場者で賑わいました。また、当社もイベント会場に当社のキャラクターである“マカプゥ”の遊具を設置し、子どもたちに喜ばれました。



▲ご当地ヒーロー「リアスの戦士イーガー」（写真左）も復幸祭を盛り上げました



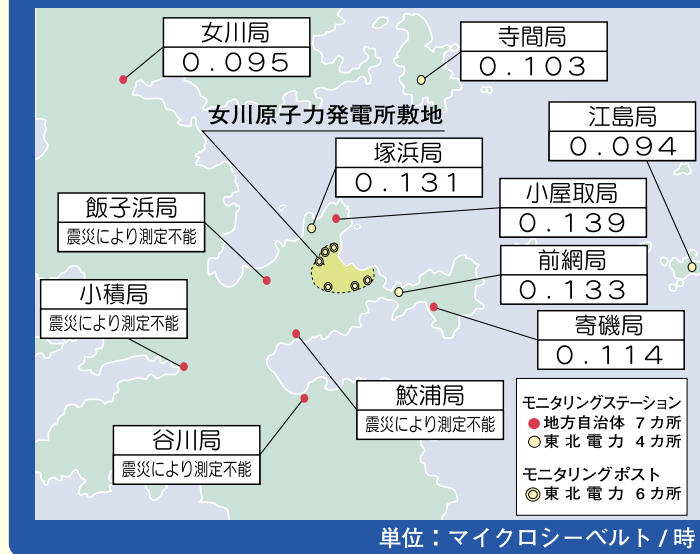
▲当社が設置した“マカプゥ”の遊具は子どもたちに大人気でした

《女川原子力発電所周辺の放射線》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、震災前よりも若干高い値を示していますが、最大で0.107マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況（3/31現在）



モニタリングポストの最小値と最大値

平成23年	測定日	測定値 (μSv/h)
平成23年	3月11日	0.027~0.064
	3月13日	1.8~21 (最大値) ^{※3}
	10月1日	0.083~0.13
	11月1日	0.080~0.12
平成24年	12月1日	0.078~0.12
	1月1日	0.077~0.11
	2月1日	0.068~0.099
	3月1日	0.060~0.094
	3月31日	0.064~0.107

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日の値、至近6カ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて空気中の放射線物質の濃度や気象データを測定しています。

※3 最大値が測定されたのは約10分間です。この値は1時間で胸部レントゲン1回の値（50マイクロシーベルト）の約半分の値です。

《女川原子力PRセンター再開のお知らせ》

東日本大震災によって被害を受けた館内設備等の修理が完了したことから、4月2日より女川原子力PRセンターを再開いたしました。

再開にあたり、東日本大震災による女川原子力発電所の被害状況などを紹介するコーナーを設けるなど一部展示内容を見直しております。

女川原子力PRセンターでは、今後も、原子力に関する分かりやすい情報発信に努めてまいります。



《お問い合わせ》

女川原子力PRセンター
TEL0225-53-3410 / FAX0225-53-3286
開館時間 / 9:30~16:30
休館日 / 毎月第3月曜日（祝日の場合翌日）・年末年始